資料１－１

長崎地方気象台
福岡管区気象台

雲仙岳の火山活動状況

平成30年２月１５日
平成２９年度　雲仙岳火山防災協議会

長崎地方気象台
福岡管区気象台

火山活動経過図

長崎地方気象台
福岡管区気象台

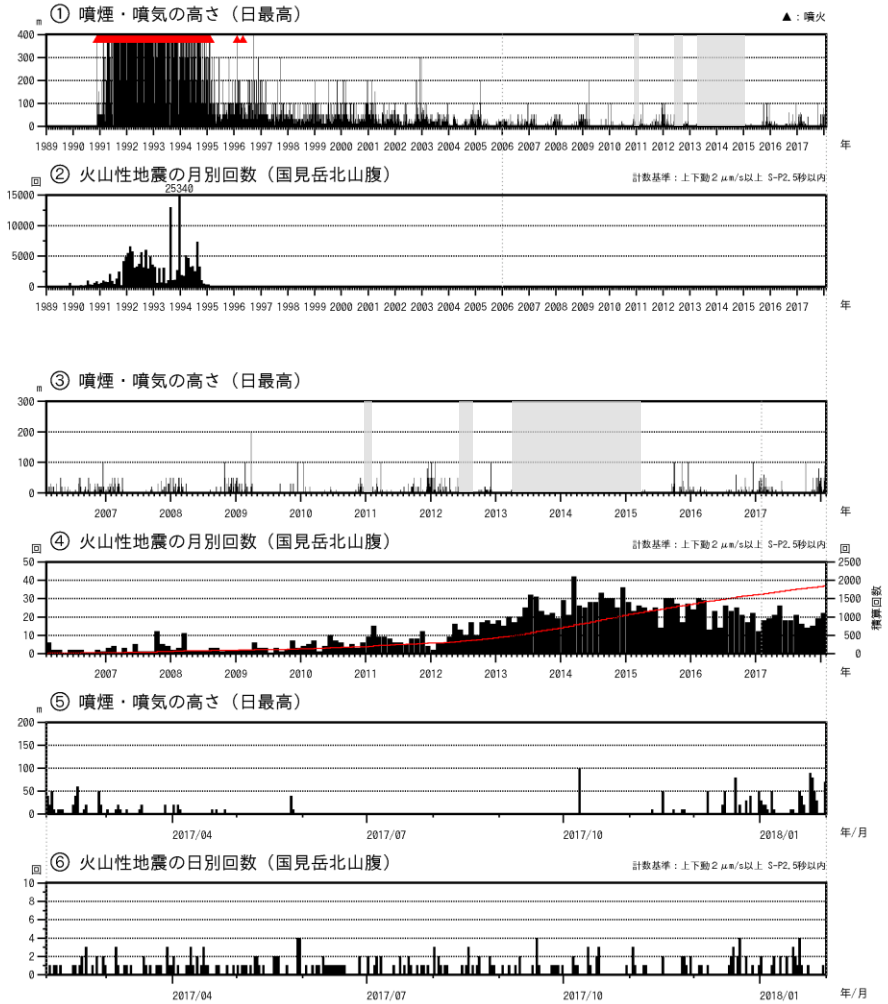


図２　雲仙岳 平成新山の状況
（１月24日、垂木台地南監視カメラによる）

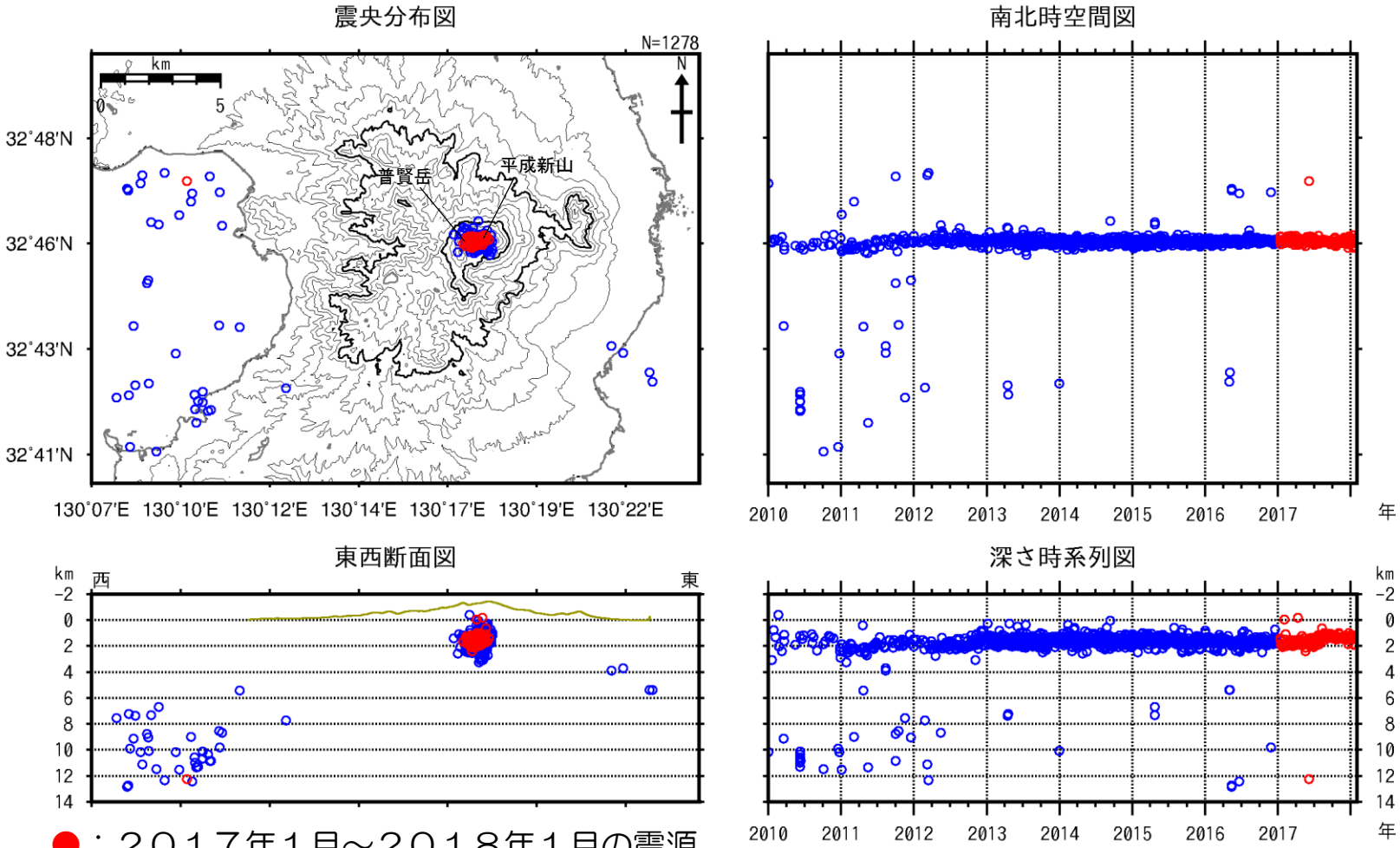
図１　火山活動経過図（1989 年１月～2018年１月）

- 噴気活動は低調に経過し、白色の噴気が時々観測される程度でした。
- 長期的には、2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ0～２kmを震源とする火山性地震の活動がやや活発となっています

※灰色部分は遠望カメラ障害のため欠測となっています
※④の赤線は回数の積算を示しています。

火山性地震の震源分布

長崎地方気象台
福岡管区気象台



●：２０１７年１月～２０１８年１月の震源
○：２０１０年１月～２０１６年１２月の震源

図３　火山性地震の震源分布図（2010年１月～2018年１月）
震源が求まった火山性地震（●、○）は、普賢岳から平成新山付近直下の深さ０～２km付近に分布しました。

雲仙岳　観測点配置図

長崎地方気象台
福岡管区気象台

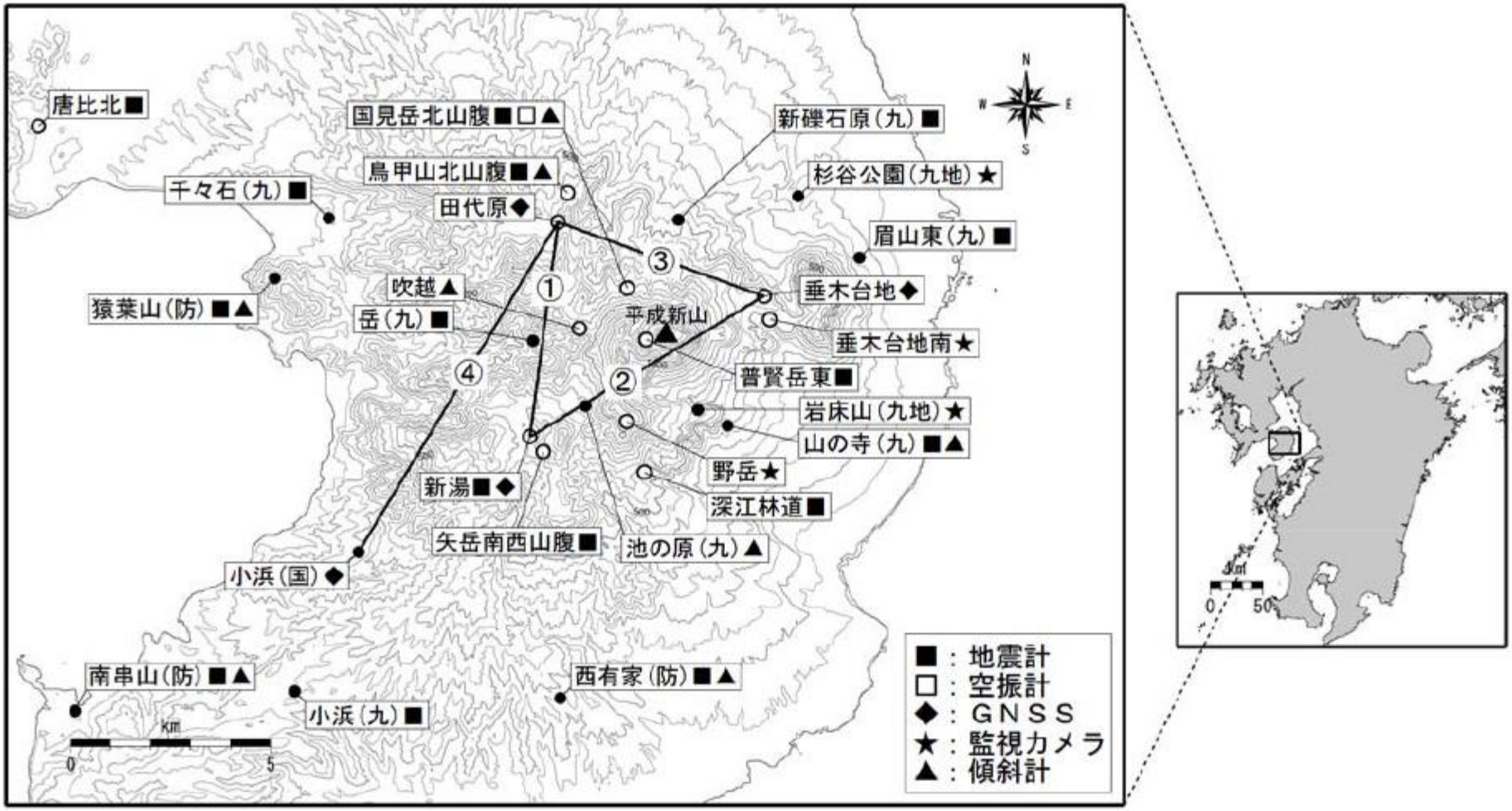


図４　観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（九地）：九州地方整備局、（九）：九州大学、
（防）：防災科学技術研究所

GNSS連続観測による基線長の変化

長崎地方気象台
福岡管区気象台

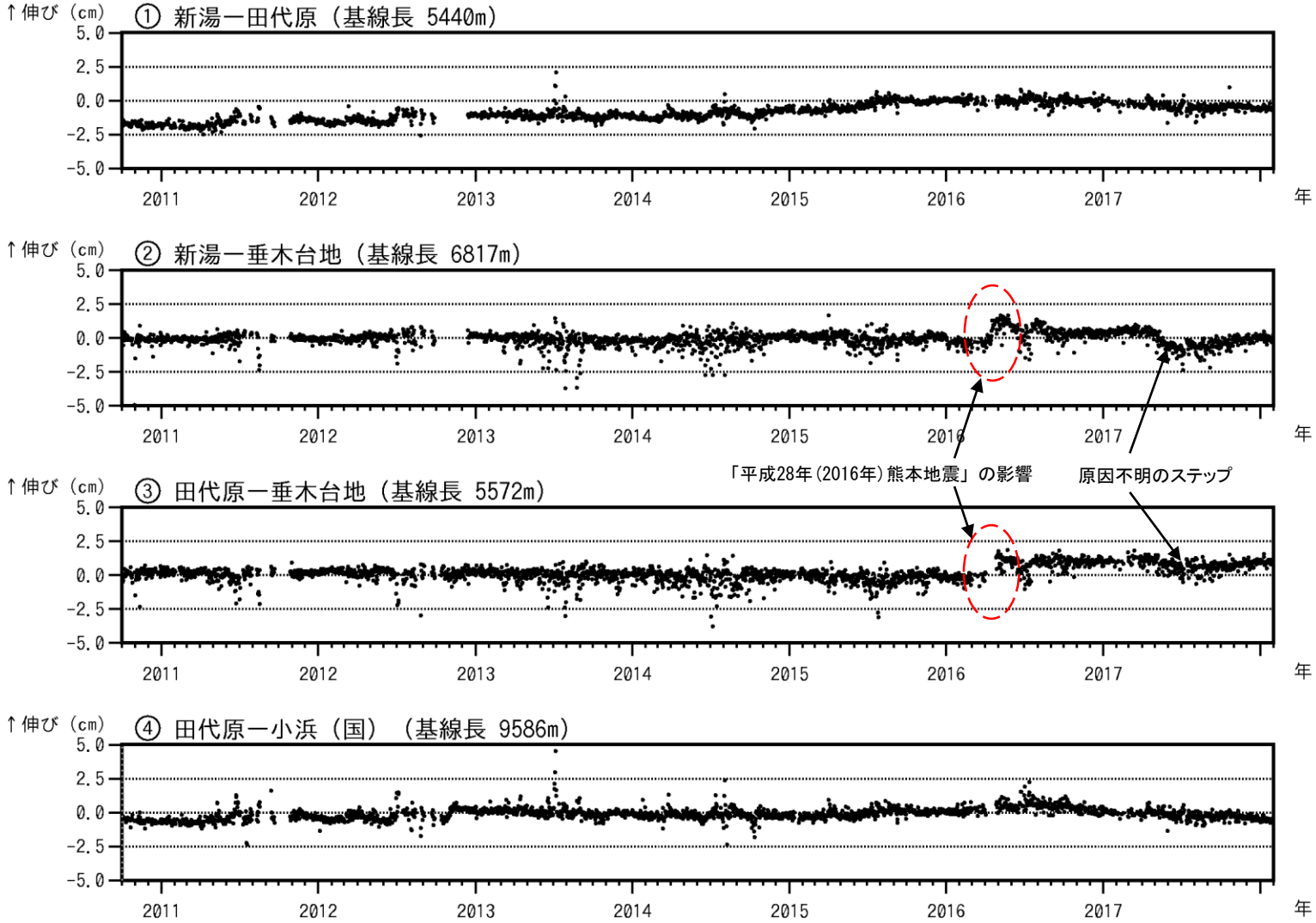


図５　GNSS連続観測による基線長変化（２０１０年10月～２０１８年1月）
GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

平成新山　目視観測及び熱映像観測地点

長崎地方気象台
福岡管区気象台

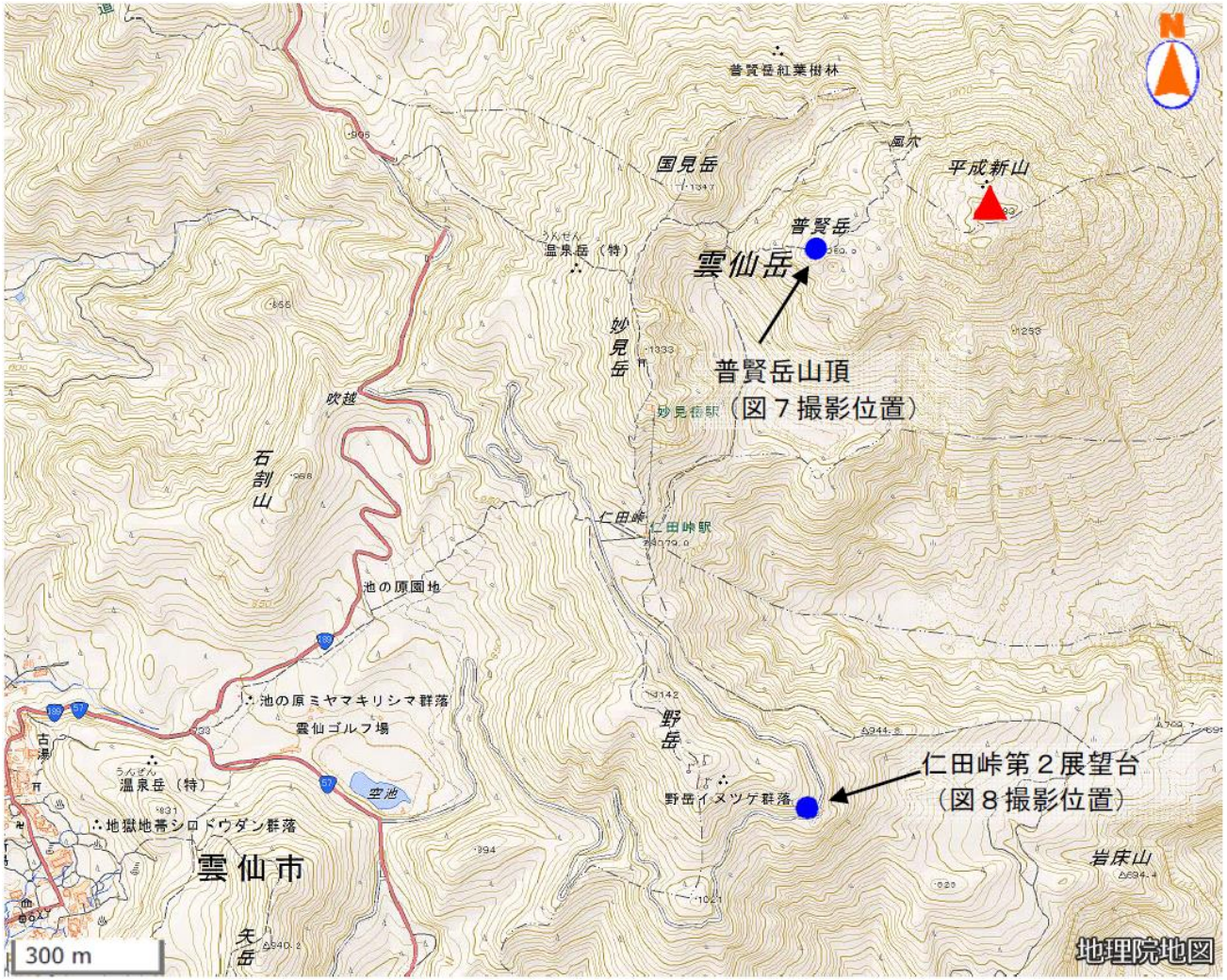


図６　平成新山の目視観測及び熱映像観測地点

平成新山の地表面温度分布

長崎地方気象台
福岡管区気象台

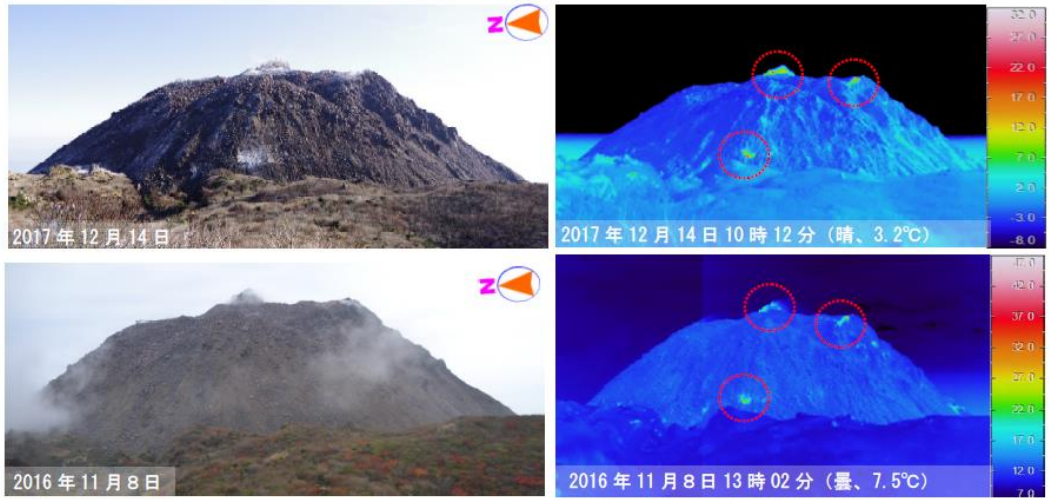


図７　平成新山の可視画像及び赤外熱映像装置による地表面温度分布（普賢岳山頂から観測）

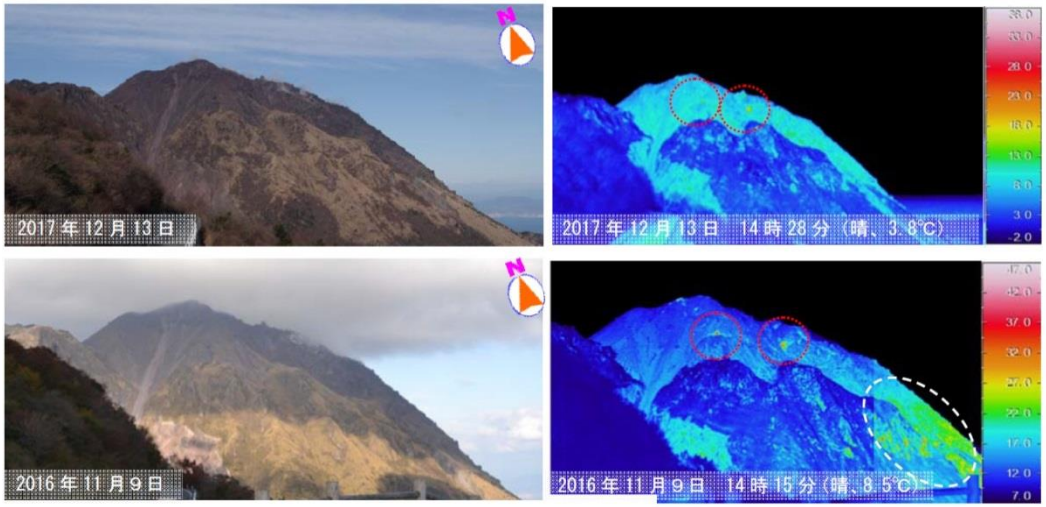


図８　平成新山の可視画像及び赤外熱映像装置による地表面温度分布（仁田峠第２展望台から観測）

- 平成新山の一部から弱い噴気が認められました。
- 赤外熱映像装置による観測では、平成新山の複数の箇所に熱異常域（赤丸破線内が主な熱異常域）が認められましたが、前回（2016 年11 月８日）と比較して特段の変化は認められませんでした。

立岩の峰噴気地帯の噴気温度

長崎地方気象台
福岡管区気象台

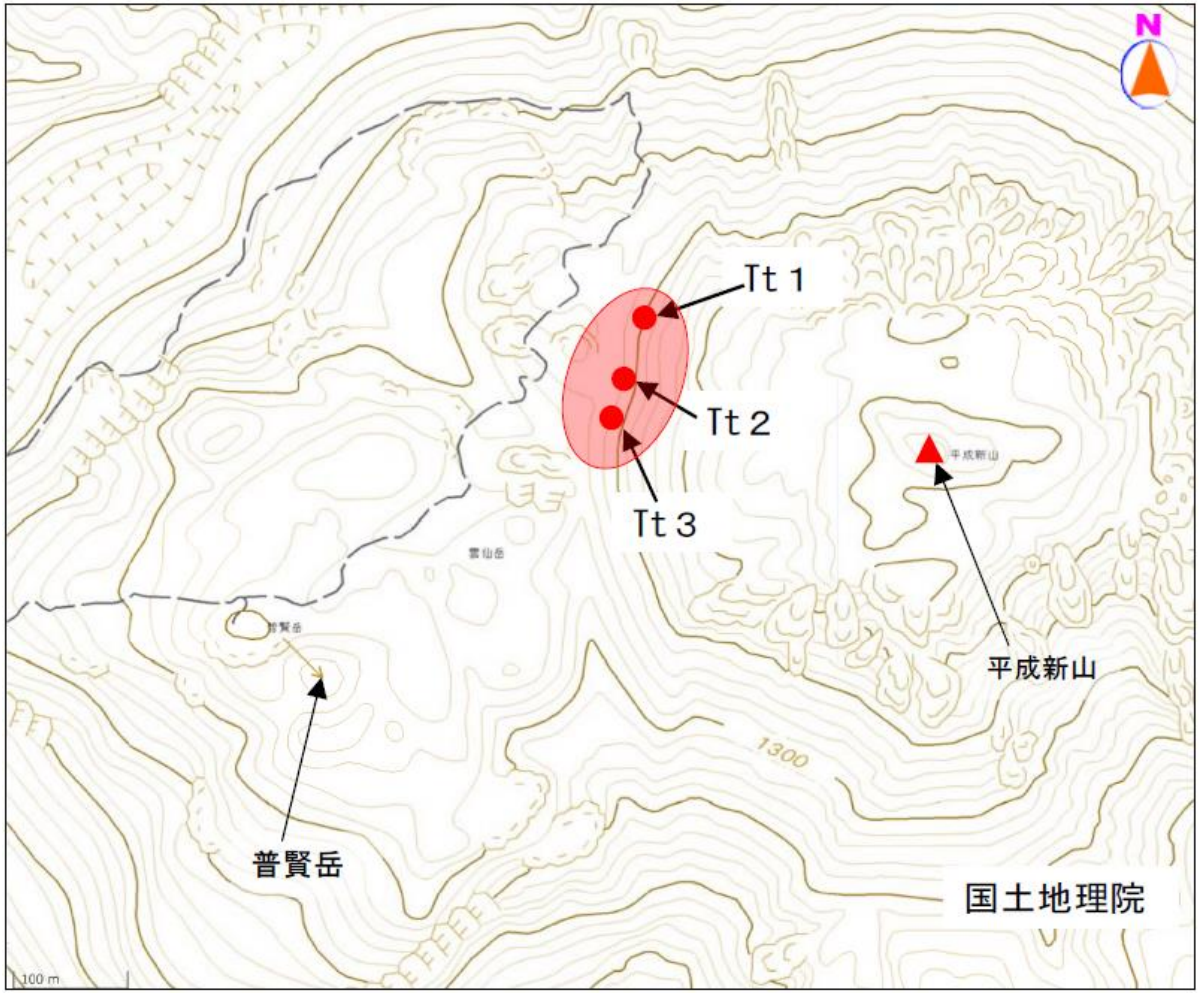


図９　立岩の峰噴気地帯のサーミスタ温度計による測定状況（Tt１～３における観測）

立岩の峰噴気地帯の噴気温度は38～67℃と前回（2016年11月７日から８日：26～65℃）と比較して特段の変化は認められませんでした。

雲仙岳の火山活動の状況

- 火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

  長期的には2010年頃から火山性地震の活動がやや活発となっていますので、今後の火山活動の推移に留意してください。

- 平成19年12月１日に発表した噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）以降、予報事項に変更はありません。